



思考力・表現力を育てる授業はどうあればよいか ～6年算数科の授業実践を通して～

大館市立南小学校 教諭 和泉 克子

1 はじめに

本校の子どもたちは、まじめで与えられた課題に対しては一生懸命頑張ろうとする意欲はあるが、自分で考えたり人前で発言したりすることを苦手とし、自分で判断し行動する力が十分に育っているとは言えない。そこで今年度は算数科を中心として、思考力・表現力を育てるためには授業をどのように構築していったらいいかを課題として研究を推進してきた。この研究主題を受け、6年生の授業のTTに入りながら実践してきたこと、また前々任校から継続して取り組んできたことなども合わせて紹介したい。

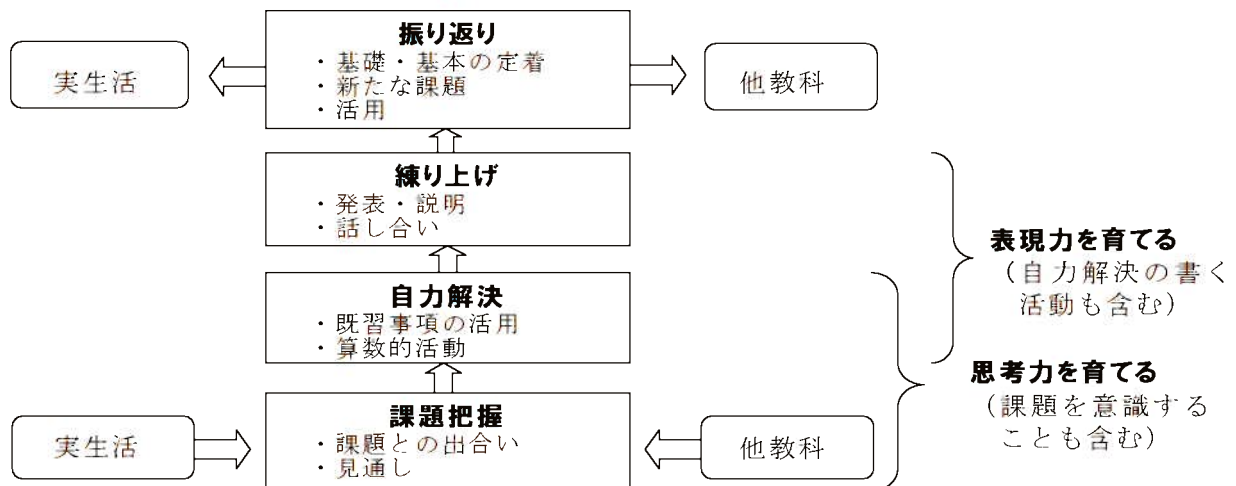
2 算数科の授業で目指す子ども像

- 主体的に学習に取り組む子ども
- 満足感、成就感をもって授業を終えられる子ども

3 算数科の授業で目指す学習過程

課題意識をもって、主体的に課題に取り組み、共に学び合うことで、より高いものを見出し、生活に生かそうとする子どもを育てる問題解決的な学習を展開することが重要である。

<算数科における問題解決的な学習の流れ>



4 思考力を育成するための実践

(1) 課題把握の場の工夫

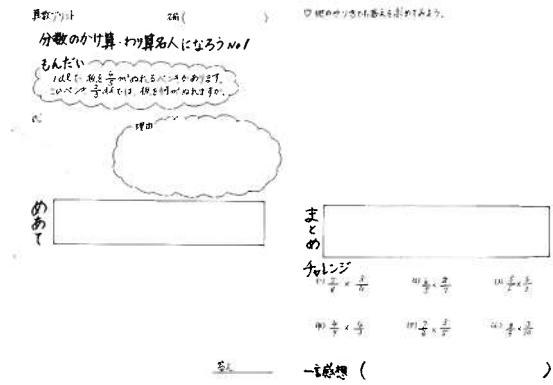
- ① 学習課題を導き出すための活動を取り入れる。
- ② 身近な生活の中から、興味のある事項を学習課題に取り入れる。
- ③ 行動目標で、具体的な学習課題を設定する。

<例> 「川幅の実際の長さを縮図にかいて求めよう」

- ④ 子どもの言葉を学習課題に取り入れる。

(2) 自力解決の場の工夫

- ① 課題解決の見通しをもてるようにする。
(学習コーナーの活用)
- ② 学習シートを活用する。
- ③ 操作活動できる場を設定する。
- ④ ヒントコーナーを設定する。



【自分の考えを自由に書いていける学習シート】

5 表現力を育成するための実践

(1) 練り上げの場の工夫

- ① 話し合いの仕方を支援する。
 - ア 「聞き方名人」「話し方名人」を活用
 - イ ハンドサインの活用
 - ウ 話し合いの視点を明確に!
- ② 発問や指名の工夫をする。
 - ア 理由や根拠にこだわった発問
 - イ 挙手による指名・意図的指名・相互指名
- ③ 学習形態を工夫する。
 - ・グループ→一斉, ペア→一斉, コース別学習などを取り入れての話し合い形態の工夫
- ④ 活発な話し合いができる学級づくりに取り組む。
 - ア 何でも話せる温かい学級づくり
 - イ 話し合う場をできるだけ多く設定



【観点→言葉→図等と段階をおったヒントを設定】

【一人一人が考えをもつためのハンドサイン】

6 学ぶ意欲を高めるための実践

(1) 学習形態の工夫

- ・一斉学習, 少人数学習, 習熟度別学習, 課題選択学習, 順序選択学習, 自由設定学習…ねらいに応じて設定する。

(2) 生活に生かす活動の工夫

- ・単元の導入や終末で日常生活と関連した活動を取り入れる。



【課題選択学習…「水のかさコース」「てんびんコース」「バネばかりコース」の3つのコースに分かれて変わり方を調べた後、全体で確認し合う】

7 成果と課題

(1) 成果

- 課題意識をもって自力解決することに意欲的に取り組むようになった。
- 発表することに抵抗を感じていた子どもが、自分から発表するようになった。
- 満足感・成就感をもって授業を終える子どもが多くなった。

(2) 課題

- 子どもの生活に結びついた学習課題を設定する。
- 学習の定着を図る学習展開や時間配分を工夫する。
- 練り上げのための手立てをさらに工夫する。